

ウムの分布が減るという報告がある。(岡崎嘉代)

オウミドリユムシの発生 沢田 允明・越 智 脩(愛媛大・文理・生)

瀬戸内海産オウミドリユムシ *Thalassema gogoshimense* の成熟期は6月上旬から8月中旬までであるが、この卵の初期発生について次のことを観察した。

1. 卵は大体球形で径170~180 μ 、無色で非常に透明である。精虫は尖体を2ヶ有する。2. 仁は1ヶで受精後順次小さくなり、胚胞完全消失(媒精後18分)の約2分後消失する。3. 受精膜の分離(30分)の際には、叉状の原形質突起状のものが卵卵腔内に現われる。4. 胚胞消失後、卵表面に特異な皺が現われて、極体がしぼり出されるように出現する。5. 卵割の際にも同様な皺が見られ、間もなく消失する。6. 胞胚期幼生は媒精後13時間で遊泳を始め、1カ月遊泳を続け、2カ月余飼育し得た。

問 1) 受精丘は認められるか。2) 受精膜が分離し始める位置は精子進入点と一致するか。(遠藤善之)

答 1) 今迄の観察では認められなかった。2) たしかめていない。

問 1) 第1卵割時に卵割面中出现する“しわ”は卵割過程のいつ頃にみられるか。2) しわは後消失するか、そして卵割の終りに卵割面はどのような形を示すか。(只野正志)

答 1) 2細胞期の休止核の出現が媒精後2時間の場合、その約10分前より5~7分位つづく。2) 消失する。かなり平坦な面になる。

再び渦虫表皮下への再生片挿入実験について 木戸 哲二(金大・理・生)

昨年東京大会での報告では *Dugesia gonocephala* の切断片を表皮下へ挿入することによつて、新しく咽頭が宿主内に生ずることに対して、その挿入片の持つ神経が重要な役割を演ずることを暗示したが、今回も同様の実験によつて、まづ切断片が挿入されて初めの2~3日では挿入片の持つ神経は塊状になり次第に該神経は伸展してくるようになる。しかし、挿入片が元の虫体から切りとられた時の水準が挿入部の水準と大体等しい場合には神経の伸展は余り見られない。これは岡田・杉野が行つた移植実験で同水準間の移植では癒着傷面間に新組織が形成されない事実と一致する。挿入片の神経が伸展した場合、その先端方向に新咽頭が形成される場合がある。これまでの移植実験では殆んど確実に新咽頭が形成されるのと比べて形成率の悪いのは挿入によつて宿主内の組織が乱されて挿入先の神経が宿主内に伸び難いのではあるまいか。

問 神経の染色に特殊の方法を用いたか。(元村勲)

答 或程度用いたが、現在のところ、ヘマトキシリン・エオシンの染色と大同小異のように思われた。よい方法があれば御教示を願いたい。

問 挿入の場合には頭部の形成は見られないか。(市川衛)

答 新しく頭部の形成は見られなかった。

テツボウエビの不相称について 新池 保(大阪商大)

テツボウエビ類の一種 *Alpheus rapax* de Haan の成体(総体長60mm内外)及び総体長4~30mmの種々の大きさのものを採集して実験材料とした。(1) 右利き(第一脚の右が大鋏 crusher, 左が小鋏 nipper のもの) 左利きの分布はほぼ等しい。(2) 総体長4mmのものの第一脚は左右同大同形で、8mm内外のもので不相称が現れ始める。(3) 4~5mmのものの相称鋏の一方を除去すると、反対側のものが大鋏となる。即ち利き手が実験的に左右される。然し相称鋏のものをそのまま飼育しても不相称を生ずる。この点はMorganのシオマネキの場合と大へん違う。(4) 不相称鋏の大鋏を除去すると反対側の小鋏が大鋏となり不相称が逆転するが、小鋏を除去すると元の不相称が維持せられ、逆転は起らない。(5) 8~14mmの不相称の現れ始めたもので左右の不相称鋏を同時に除去すると、相称の小鋏を生ずる場合と、元の不相称を維持する場合とがあり、不相称の逆転の起ることはない。